



JR東労組 八王子

HACHIOJI



ホームページ

発行責任者
執行委員長 針谷 歩

2021/2/25 No.32

八地申 22号 「2021年3月ダイヤ改正等に関する申し入れ」 2月22日 交渉終了

14.小淵沢駅入区車両(一部)における乗務員作業の見直し内容について明らかにすること。 **《その4》**
委託されていた作業を直営作業とするのは暫定措置とし、委託先の要員確保については今後もエルダー社員の雇用確保の観点から引き続き取り組むこと。

組合)業務委託を流動的に行うことに問題がある。採用の有無で業務委託を決めるべきではない。

会社)グループ一体で考えたい。採用人員がないから本体で行うという簡単な考えではないことは認識してほしい。

組合)経営判断し委託するわけであって、簡単な判断ではない。エルダー雇用の場として考えるべき。

会社)引き続き社員の声を聞きつつ、エルダー社員の雇用の場を確保していきたい。

15.今ダイヤ改正における、終電時間繰り上げで拡大された保守間合いを線区別に明らかにすること。また、パートナー会社及び協力会社の働き方改革を実現させる目的に即した作業計画の策定を行う体制を構築すること。

組合)パートナー会社と協力会社の働き方改革を実現させることが目的であることには認識するが、

機械化を推奨しているが、間合いが拡大されなければ実現は難しい。

会社)フレス資料にあるとおり、240分以上の間合いが必要であると認識している。確保に向けて検討をしていく。

組合)作業員の確保が難しく、地方に行けば行くほど大変である。作業者の確保を行わなければ、線路を治すことが出来なくなってしまう。肉体労働から機械化への検討は今後も労使の共通認識として議論するべき。

会社)実際に間合い拡大後の課題は検討を引き続き行っていく。今回のことで選択肢は増えたと認識している。

**働き方改革を実現させるため
機械化への検討を継続することを確認!!**

【教育訓練】

16.485系担当区において、担当できる運転士が逼迫していることから、早急に増員に向けた教育訓練を実施すること。

組合)立川運転区の485系担当者は現在8名で、運行時に本線運転士が指導担当に教えるという

捻じれ現象が起きている。この事が問題であると考えている。今後も485系の運行が予定されているので、技術継承含めた教育体制の充実を求める。

会社)教育を行っていく。

17.立川運転区において、E353系担当乗務員の増員に向けた教育訓練を早急に行うこと。

組合)担当乗務出来る方が多くいるから、養成を行わないのはおかしい。

会社)養成する声があれば、養成していく。

組合)ライフサイクルから戻ってきた方にも声を聞いてもらいたい。E353に添乗しハンドル訓練を行うことで教育は出来る。

会社)現場には確認しつつ、そのような声があることも伝えていく。

**現場の声を聞きつつ
養成を行うことを確認!!**

